

立正大学仏教学部（原愼定学部長）では東日本大震災一周忌にあたり、法要・特別公開講座、そして復興支援ボランティア、さらには有志による唱題行脚をおこなった。3月8日は大崎校舎・石橋湛山記念講堂において及川周介理事長導師の下、教員・学生有志が式衆となって一周忌法要を厳修した。続いて「『立正安国論』から東日本大震災を考える」と題し、正木晃講師・伊藤瑞叡教授・北川前肇教授がパネリスト、安中尚史教授がコーディネーターとなって特別公開講座を開催し、日蓮の主著『立正安国論』を通して「震災と日本・人・社会」の問題に真摯に向き合い、被災地の復興と平安の指針となるべく考えた。当日は200人余の来場者があり、「一周忌に際し、鎮魂と復興のために皆なで手を合わすことができよかった」「鎌倉時代当時の震災と、平成の現代の震災が『立正安国論』を通じてつながり、意義深い講座でした」等の声を聞くことができた。続く9日・10日は則武海源教授が引率の中心となり、岩手県陸前高田市において仏教学部生有志35名が復興支援ボランティアに挺身し、11日には仙台市若林地区を中心に一周忌唱題行脚をおこなった。人員の減少が著しい現地のボランティア活動では、住宅の側溝の清掃、がれきの撤去をおこない、若林地区・荒浜慰霊碑に向けての行脚では、一同に涙をこらえて題目を唱え、被災地住民の方々と一緒に慰霊と復興を祈った。参加した学生は、他者のために尽くし祈る菩薩の生き方の一端を、身をもって体験することができた。